

大学院生交流

小林 亜美

(教育実践コース2年)

2018年9月22日(土)、北京師範大学珠海分校にて大学院生交流が開催された。新潟大学からは、小出洋介、高見潤、船山和利、小林亜美の4名の院生が各自の研究についての発表を行った。

私は、「持続可能な社会づくりを考える中学校社会科の授業づくり」という研究テーマで、九州地方の公害を扱った授業実践についての発表を行った。中国には「社会科」という教科がなく、「社会科」とはどのような教科で、その中で「持続可能な社会づくりを考える」とはどういうことなのかを、10分という短い発表時間の中で十分伝えることができず、活発な意見交流に至らなかった反省点がある。限られた時間の中で、中国の教授や院生にとくに伝えたいことを絞って発表すると、より意見交流が活発になったのではないかと考える。しかし、授業実践のテーマであった「公害」は中国でも問題になっていることであり、日本と中国の共通の重要な課題であると認識してもらうことができた。国の違い、教科の違いはあっても、地球規模の課題に対して子どもたちが主体的に考えることの重要性は、日本でも中国でも同じだということに気付かされた。

発表全体を通して、新潟大学教職大学院生の発表は、実践的な発表であった一方、中国の大学院生の発表は、先行研究の深い考察からの仮説、研究の方向性、課題など理論的な発表が多く、理論と実践の両方から学ぶことができた。

また、新潟大学の院生の発表に、中国の大学院生から多くの質問がなされた。発表の終了後も質問や意見交流をしている姿が見られ、活発な交流が行われた。中国の大学院生の研究から中国の教育やその課題について学ぶことができたとともに、質問や意見交流により、自身の研究に対する新たな気づきが得られた。短い時間であったが、中国の大学院生と交流でき、非常に有意義な時間であった。